

か とお しん けん かんか  
～「書く」ことを通して「人権」について考えてみませんか～

## 第45回わたしからの人権メッセージ

# 作文募集中

応募期間

2024年7月1日(月)~9月2日(月)

応募者全員に  
参加賞を  
進呈します。

### テーマ

- ◆同和問題
  - ◆女性の人権※
  - ◆障がい者の人権
  - ◆外国人の人権
  - ◆子どもの人権
  - ◆高齢者の人権
  - ◆性的少数者に関する問題
  - ◆平和と人権
  - ◆環境と人権
  - ◆感染症(ハンセン病問題・HIV感染・新型コロナウイルスなど)と人権
  - ◆犯罪被害者やその家族の人権
  - ◆インターネットと人権
  - ◆その他さまざまな人権について(災害と人権、アイヌの人々、ホームレスなど)
- ※デートDV(交際相手からの暴力のこと)、セーフシティさかい(女性や子どもをはじめ、すべての市民の安全・安心に向けた取組)を含む。

### 記入方法

- (1)400字~1200字程度(400字詰め原稿用紙または  
ます目入り用紙を使用してください。)
- (2)たて書き(パソコンによる印字も可)
- (3)1行目に題名、2行目に(在学の場合は学年と)名前、題名  
の右(枠外)に作文のテーマを記入してください。

### 審査

- (1)審査会にて、特選20編と入選30編を選びます。
- (2)特選及び入選の方には11月に通知します。

### 特選作品の公表

- (1)掲載にあたっては、作文の趣旨を損なわない範囲で一部  
修正する場合があります。
- (2)公表にあたっては、原則として名前を、在学の方は学年も  
掲載します。

### 応募・問合せ先

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1  
堺市人権教育推進協議会(堺市役所人権推進課内) 「わたしからの人権メッセージ」係  
電話 072-221-9280 FAX 072-228-8070  
ホームページ <https://www.jinkenkyo.jp>

### 応募対象

堺市内に在住・在学・在勤の方なら、どなたでも応募できます!

### 応募方法

- だんたい おうぼ がつこうなど だんたい おうぼ ばあい  
(1) 団体応募(学校等の団体で応募される場合)  
がつこうなど だんたい さくぶん おうぼ ようし いつ  
学校等の団体ごとにとりまとめた作文と、応募用紙を一  
しょに下記応募先に郵送または持参(市立小中学校は通  
そうか 送でも可)してください。

おうぼ ようし かき おうぼ といあわ さき  
※応募用紙は下記「応募・問合せ先」ホームページからダウンロードできます。  
さかいしりつがっこうえん かた はいふ ぶんしょ じんけんすいしん か  
※堺市立学校園の方はC4thの配布文書(人権推進課)もご利用いただけ  
ます。

おうぼ まえ かなら ほんにん おうぼ しょうだく え  
★応募する前に必ず本人から応募の承諾を得てください。また、特選受賞  
さい さきひん さくわんしゅうなど けいさい  
の際は作品が作品集等に掲載されることへの承諾も得てください。

### (2)個人応募

げんこう うら じゅうしょ ねんらく さき でんわ ばんごう ねんれい めいき  
原稿用紙の裏に住所・連絡先の電話番号・年齢を明記し、  
下記応募先に郵送または持参してください。

### 表彰式・作品発表

とくせん さくひん えら めい かた じんけん まも し みん  
特選作品に選ばれた20名の方を「人権を守る市民のつど  
い」(12月上旬開催予定)で表彰します。  
だいひょう めい かた さくぶん はづびょう  
代表4名の方には、作文を発表していただきます。

### その他

- (1)応募者全員に参加賞を進呈します。
- (2)応募は個人のオリジナルで、未発表のものに限ります。  
(ただし、2023年9月2日以降に書かれたものとします。)
- (3)特選及び入選の方には賞状と記念品を贈呈します。
- (4)特選作品は特選作品集や当協議会ホームページなどに  
掲載します。
- (5)応募作文の著作権は、当協議会に帰属します。
- (6)応募作文は返却しません。
- (7)応募者の個人情報は本事業の目的以外には使用しません。

主催 堺市人権教育推進協議会  
後援 堺市・堺市教育委員会



2023  
ねん  
年度

# じゅしょうさくひん 受賞作品より(抜粋)

## いのち 命のバトン (小学生)

なつやす ながさき いえ いつ せんば ななじゅうはちねん まえ はなし おし ななじゅうはちねん  
夏休みに、長崎のおばあちゃんの家で、一緒に千羽づるをおりました。そのときに、七十八年前の話を教えてもらいました。七十八年  
まえ はちがつこのか わたし ながさき こうやぎ しま す ひ ようじ ふね ながさき ほんび い よ  
前の八月九日、私のひいおばあちゃんは、長崎の香焼という島に住んでいたそうです。この日、用事があって、船で長崎の本土に行く予  
定でした。ところが、のる予定の船にのりおくれてしましました。あつい中、次の船を待っていると、海の向こうがピカッと光ったそうです。  
じゅういちじ に ふん ながさき お けんし ばんだん よ てい どお ふね いのち  
十一時二分に長崎に落とされた原子爆弾でした。ひいおばあちゃんも、予定通りの船におくれずにのっていたら、命をうばわれていた  
さんねんご う はは わたし いのち かもしだれ いま わたし  
かもしれません。そして、その三年後におばあちゃんが生まれ、母、私へと命のバトンがうけつがれて、今の私がいます。でき上  
せんば いつ しょ ながさき げんばくらっか ちゅうしんち も て あ こころ なか  
がった千羽づるを、おばあちゃんと一緒に長崎原爆落下中心地に持つていき、手を合わせて、心の中でいのりました。

## しつけ 「瞼」という名の仮面 (中学生)

しょう がつ こう りょう しん で さき おお ごえ 乙 しか じよ せい み じよ せい けん まく こ な こ  
小学校のころ、両親と出かけた先で、大声で子どもを叱る女性を見かけた。女性のあまりの剣幕に、子どもはおびえ、泣いていた。子  
じん けん かんが ま さき とき あたま う さやくたい かんが けん まく こ な こ  
どもの人権を考えると、真っ先にこの時のことが頭に浮かぶ。虐待だとまでは考えたわけではないが、誰かが助けるべきだと思った。だ  
わたし くち かたち よ と ほ ちとう き とお こえ き と ふた じよう けん あ あいて なに  
が、私はどうすることもできず、とても悔しい思いが心に残った。「親が子を叱るのは瞼」との考え方が世間に根付いており、「教育」の  
たん ほりょく はんだん こ かめん もと おこな ぼうりょく ほんとう こ まも ちい  
か、単なる「暴力」なのか判断できないことがある。「子どものため」という仮面の下に行われる暴力から、本当に子どもを守るには、小さ  
なことでも通報できる環境と、一人一人の判断力を育てていかなければならないと思う。

## 阻む壁 (高等支援学校)

しょう で き おも しょう わたし こ せ い ぶん ほか ひと どりょく で き い  
障がいがあるから出来ないと思わないでほしい。障がいがあるからこそ「私」という個性があり、その分他の人より努力が出来ると言  
わし ちゅうかくしよう しゃ で き はなし つう よ なか おも おお かん  
いたい。私は聴覚障がい者なので、コミュニケーションが出来ない、話が通じないと世の中から思われていることが多いように感じる。  
わたし くち かたち よ と ほ ちとう き とお こえ き と ふた じよう けん あ あいて なに  
私は口の形を読み取りながら、補聴器を通して声を聞いてコミュニケーションを取っている。この二つの条件が合えば相手が何を言つ  
り か い ちゅうしんち ほ かく で き たつきゅう れんしゅう かよ はじ ちようかくしよう しゃ り ゆう れん  
ているかは、ほぼ理解できる。中一くらいから本格的に卓球の練習に通い始めたが、「聴覚障がい者だから」という理由でしかたなく練  
じゅう つ あ かん ちゅう かく しょ う しゃ で き おも こ い しょ れんしゅう ほ う う わ  
習に付き合ってくれているように感じた。聴覚障がい者はコミュニケーションが出来ないと思い込んだり、一緒に練習する方法が分  
かりなかつたりなどの理由で避けられている人が多い気がした。世の中に聴覚障がい者に対する理解が浸透していないのなら、自分  
じゅ だん かんが ひと おも にんげん じぶん  
なりにアピール手段を考えて、「おっ。この人とやりたい。」と思わせる人間になりたい。

## アボジ(父)オモニ(母)の思いを胸に歩み続ける (成人)

わたし おお さか ふ い ざ み し ざい に ちゅう せんじん に せ い せん そうちゅう う ご さ い とき せん そ お い づみ ちよう  
私は大阪府和泉市で在日朝鮮人二世として戦争中に生まれました。五歳の時に戦争が終わり、それからしばらくして和泉にできた朝  
せん がつ こう に うがく わたし さい とき な たいへん まえ とし わたし いもうと  
鮮学校に入学しました。アボジは私が11歳の時、亡くなりました。それからのオモニは大変でした。その前の年に私のふたごの妹たちが  
う にんきょうわい か そく たす あ くら だい こ う はん  
生まれたばかりだったのです。アボジがいなくてもオモニと9人兄弟の家族は助け合って暮らしました。やがて10代の後半になったこ  
ろにもっと仕事をしなければならなくななり、ヘップサンダルの工場に通うようになりました。ベンゾールという接着剤のにおいが体に悪  
いことは知っていましたが、働くことに必死だったので気にもかけませんでした。その仕事は23歳で結婚する時まで続けました。  
けつ こん はたら し ごと うえ かん じ ょ な で き ち ょうせんが う お し ほん よ  
結婚してからも働きづめでした。仕事の上でも漢字を読んだりすることは何かと出来ました。朝鮮学校でも教えてもらつたし、本を読  
むのが好きだったので、自分でも調べました。でも、難しい漢字はどうしても書けるようになりません。勉強が途中までだということが  
き わんまえ との ば は ちうが う こ う に うがく し と べんきょう と ちゅう  
ずっと気になっていました。2年前に殿馬場中学校に入学しました。なかなか歳を取つてからの勉強は大変です。今、嬉しいことはローマ  
じ ょ かんばん み か か じ ぶん かん けい も じ おも  
字が読めるようになってきたことです。看板を見てTOYOTAとかHONDAと書いてあっても自分には関係のない文字だと思っていま  
た。しかし、学校でローマ字を習つて「あああのトヨタのことか。」と思うと、とても嬉しくなります。今の調子で色んなことを勉強し、学  
こ う たの な い おも おも い ちよ し いろ べんきょう が つ  
校を楽しみながら長生きしたいと思います。